

わたしたちの水道

尾張旭市の水道施設



1 上水道施設管理センター

市内へ水を送っている配水池・調整池のようすを見ている施設です。

2 柏井配水場

柏井配水場には、
柏井配水池と高区
配水池があります。

柏井配水池は、旭台などの土地の高さの特に高い所へ水を送る施設です。

高区配水池は、市の南部・北部の土地の高さの高い所へ水を送る施設です。

3 旭ヶ丘配水場

低区配水池は、市の中央部の土地の高さの低い所へ水を送る施設です。

4 桜ヶ丘調整池

災害などで大規模な断水になった時に応急給水を行う施設です。かつては、朝夕水をたくさん使用する時間帯にポンプを運転し、それぞれの地区へ水をおぎなう施設でした。

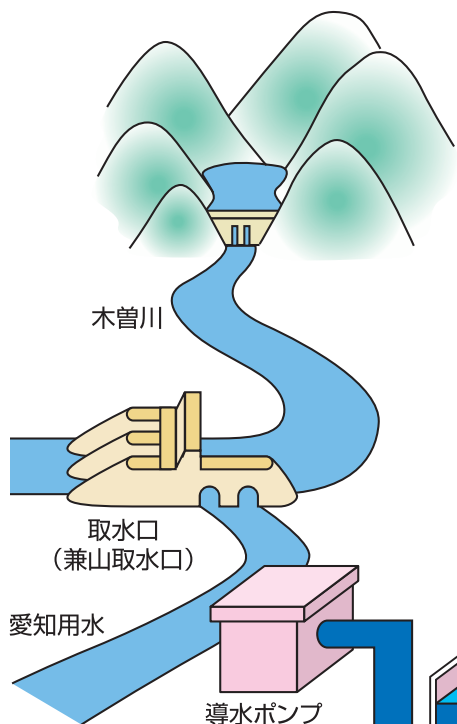
5 吉岡調整池

6 南山調整池

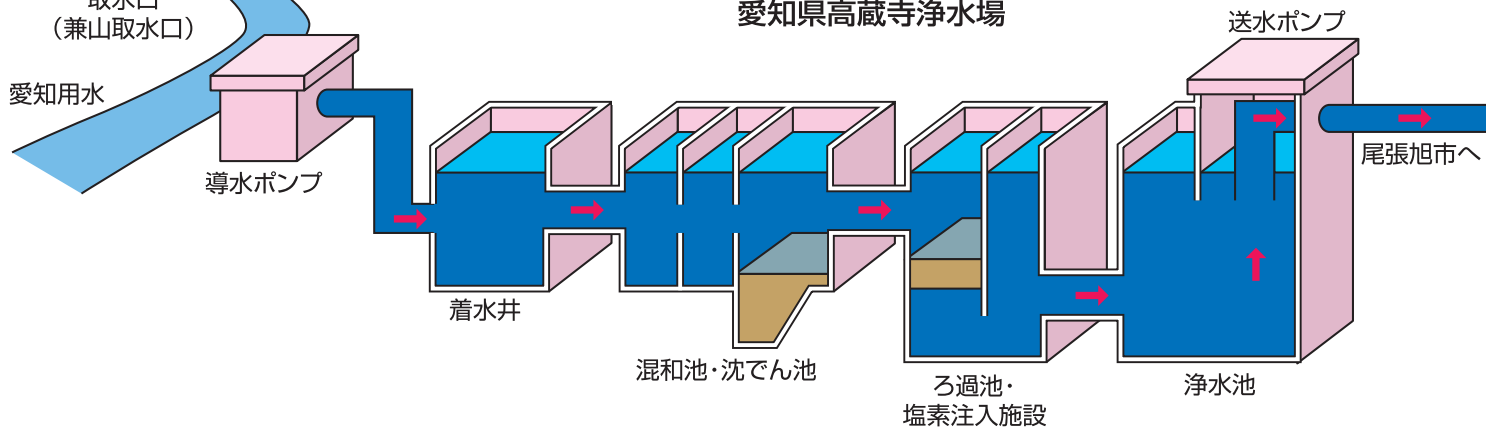
尾張旭市の水道水が家庭にとどくまで

わたしたちが毎日使っている水道の水は、^{ながの けん まき お}長野県の牧尾ダム、^{み そ がわ}味噌川
^{ぎ ふ けん あ ぎ がわ}岐阜県の阿木川ダムから木曽川を流れ、^{ぎ ふ けん かねやましゅすいこう}岐阜県の兼山取水口から
^{あい ち しょうすい}愛知用水を通り、^{あい ち けん こうぞうじじょうすいじょう}愛知県の高蔵寺浄水場できれいにされ、^{すいどうし せつ}市の水道施設
を通して、みなさんの家庭や学校、工場などにとどきます。

浄水場のしくみ



^{あい ち けんこうぞう じじょうすいじょう}
愛知県高蔵寺浄水場



^{しゅ すい こう}
取 水 口

木曽川の水を愛知用水に取り入れる。

^{どう すい}
導 水 ポ ン プ

^{じょうすいじょう}
愛知用水の水を浄水場にくみあげる。

^{ちゃく すい せい}
着 水 井

^{じょうすいじょう} 浄水場にくみあげた水の量を調整し、^{やくひん}にがりをしずめる薬品をいれる。

^{こん わ ち ちん ち}
混和池・沈でん池

^{やくひん}薬品の入った水をかきまぜて、水の中の小さなまざりものを大きなかたまりにしてしずませる。

^{か ち えんそちゅうにゅうしせつ}
ろ過池・塩素注入施設

水を^{あつ そう}厚い砂の層にとおしてから、^{やくひん しょうどく}薬品で消毒してきれいな水にする。

^{じょう すい ち}
浄 水 池

きれいになった水をためておく池で、^{せいけつ}さを保つため、池はおおわれている。

^{そう すい}
送 水 ポ ン プ

きれいになった水にポンプで^{あつりょく}圧力をかけて、尾張旭市の水道施設に送り出す。

かしわ い はい すい じょう
柏 井 配 水 場



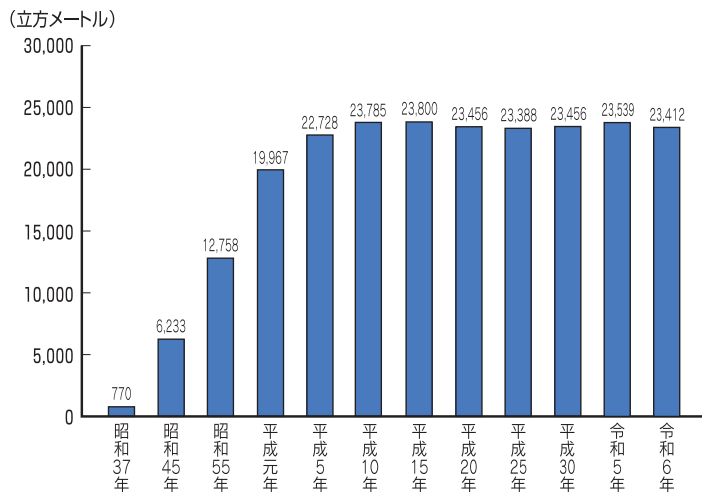
あさひ が おか はい すい じょう
旭ヶ丘配水場



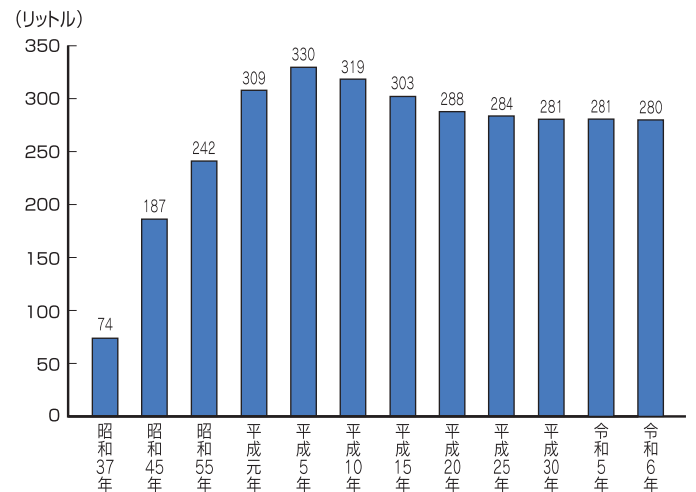
じょうすいどうしせつかんり
上水道施設管理センター



市内で1日平均して使用した水の量



市民1人が1日平均して使用した水の量



水道のうつりかわり

いまのような水道がなかったころ、人は川の水や地下水などの水をそのまま使っていました。

しかし、おおぜいの人^{よ ぼう か さい}がくらすようになると、伝せん病^{せつ び}の予防や火災の消火のためにも、安心して水が使えるような設備が必要になってきました。そこで、川や池などの水を砂などでこし、きれいにしてから町にひいてくることが考えられました。

日本ではじめてつくられた水道は、1590年、徳川家康^{とくがわいえやす}によってつくられたものとされています。これは、井之頭のわき水^{い のがしら}を20数キロメートルの用水路^{ようすいろ}で江戸の町までひいてきて、その水を石樋^{せき ひ}や木樋^{もく ひ}（石や木でつくられた現在の水道管^{すいどうかん}のようなもの）によって江戸の人たちに給水^{きゅうすい}したものです。

その後、近代式の水^{よこはま}道^{ながさき}が横^{はこだて}浜^{ばうえき}、長^{さか}崎^{みなと}、函館^{えんかん}など貿易の盛んな港まちからできて100年以上が過ぎ、現在では日本のほとんどの人が水道を使っています。

尾張旭市^{あいち けん}の水^{なが の けん み}道^{たけむら}は、愛^{げんざい}知^き県^{そ まち}が長^{おうたきむら}野^{まき お}県^{すいげん}三^{じょう}岳^{こう じ}村^{たいぼう}（現在の木曾町^{き ぞう}）・王^{きゅうすい}滝^{きゅうすい}村^{きゅうすい}の牧^{せ い び}尾^{じ ぎょう}ダム^{じ ぎょう}を水源として昭和32年に始めた水道事業にあわせて、昭和35年に工事を始め、昭和37年1月には待望の給水ができるようになりました。その後、人口や水道の使用量の増加とともに水道施設の整備事業がおこなわれてきました。昭和46年には旭ヶ丘配水場^{あさひがおかはいすいじょう}（現在の^{げんざい}上^{じょうすいどうし}水道^{せつ かん り}施設^{せ い び}管理^{じ ぎょう}センター）、昭和51年には低区配水池^{てい く はいすい ち}（現在の旭ヶ丘配水場^{げんざい}）、そして平成6年7月には柏井配水場^{かしわいはいすいじょう}が建設され、現在ではポンプを使わず、水が自然に流れる力^{し ぜん}を利用した方法^{し ぜんりゅうかしき}（自然流下式^{あんてい あんぜん}）で、安定して安全な水を市全体に給水^{し ぜんたい}できるようになっています。

水をたいせつに使いましょう

水は、水道のじゃ口をひねればかんたんに使うことができます。

しかし、水がわたしたちのところに来るまでには、多くの人たちの努力や協力、たくさんのお金がかかれています。また、水道の水には限りがあり、何日も雨がふらないと、ダムの水がなくなってしまい、かんたんに水を使うことができなくなってしまいます。

わたしたちの生活になくてはならない、限りある水をもう一度見直し、ふだんから水をたいせつに使いましょう。



歯みがきはコップで。流しっぱなしは、水のムダ使いです。



車をあらうときはバケツを使いましょう。ホースであらうとたくさんの水が必要です。



水を使うときは出すぎないように…。使ったあとは、じゃ口をきちんとしめましょう。



ふろののこり水は、せんたく・そうじ・まき水に使えます。